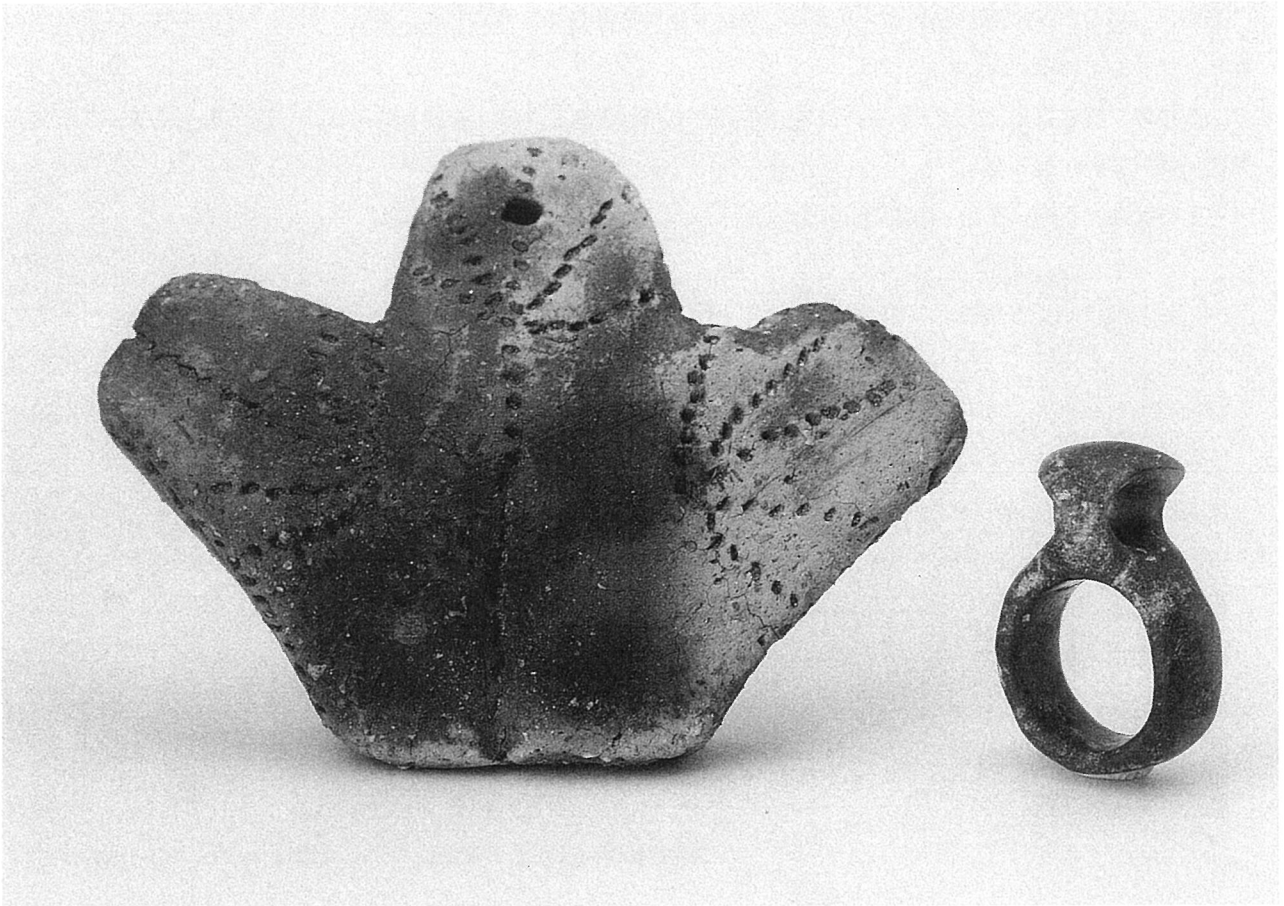


小杉町埋蔵文化財発掘調査一覽

2001年度



2002年3月

富山県小杉町教育委員会

例 言

1. 本書は、平成13年度に実施した埋蔵文化財分布調査及び発掘調査の概要をまとめたものである。
2. 埋蔵文化財調査に係る事務局は小杉町教育委員会生涯学習課に置き、文化財保護係長 高橋 登が担当し、生涯学習課長 御後庄司が総括した。
3. 本書に収録の調査は、生涯学習課文化財保護係の原田義範・稲垣尚美が行った。
4. 調査の実施にあたり、富山県教育委員会文化財課、富山県埋蔵文化財センターから指導・協力を得た。また、調査から報告書作成に至るまで次の方々や諸機関から教示・協力をいただいた。記して謝意を表したい。
赤江 修・宮田進一・藤岡静子・高岡土木事務所・地域生活支援交流ハウスふらっと
5. 調査を実施した遺跡の出土遺物は、小杉町埋蔵文化財整理室で整理を行い、遺物・原図・写真類は小杉町教育委員会が保管している。
6. 本書作成に係る復元・実測・トレースなどの諸作業は、金瀬ますみ・吉島正喜・開 一美・堀埜実津子・安田久実代・吉沢泰子が行った。
7. 本書の編集・執筆は原田・稲垣が行った。

目 次

| | | | |
|------------------------|---|------------------------|----|
| 1. 平成13年度の概要…………… | 1 | 日の宮城跡 (No. 6) …………… | 7 |
| 2. 分布調査…………… | 2 | 黒河尺目遺跡 (No. 8) …………… | 9 |
| 3. 試掘調査…………… | 3 | 4. 本発掘調査…………… | 10 |
| 中山北A遺跡 (No. 1) …………… | 4 | 針原西遺跡 [No. 3] …………… | 11 |
| 加茂社遺跡 (No. 2) …………… | 4 | 黒河・中老田遺跡 [No. 4] …………… | 12 |
| 赤田東遺跡 (No. 3) …………… | 5 | 針原西遺跡 [No. 1] …………… | 13 |
| 赤田I遺跡 (No. 7) …………… | 5 | 針原西遺跡 [No. 5] …………… | 14 |
| 水上・本開発遺跡 (No. 4) …………… | 6 | 黒河尺目遺跡 [No. 2] …………… | 15 |
| 黒河竹山遺跡 (No. 5) …………… | 6 | 5. 普及・活用…………… | 16 |

※遺跡名右側の No. は () が試掘、[] が本発掘調査の一覧表の番号を示す。

凡 例

1. 本文中における発掘区図版の試掘トレンチ脇の記号は、遺物の出土位置を示し種類は次のとおりである。
● 縄文土器 ▲ 石器・石製品 □ 弥生土器 ▽ 土師器 △ 須恵器 ■ 珠洲
☒ 中世土師器 ◎ 木製品 ○ 中世磁器 ◇ 鉄滓 ⊗ 近世無釉・施釉陶器 T トレンチ

※表紙写真は針原西遺跡 [No. 3] 出土の土偶と指環状石器

1. 平成13年度の概要

小杉町が平成13年度に実施した埋蔵文化財の調査件数は、分布・現地確認調査が16件、試掘調査8件、本発掘調査が5件であった。昨年度の件数と比較すると分布・現地確認調査が約3割減少し、試掘調査も5割減少した。全調査の原因者内訳を個人・民間企業・公共の開発に大別すると、前年比個人事業7割減、民間開発3割増、公共事業は増減なしの状況であった。

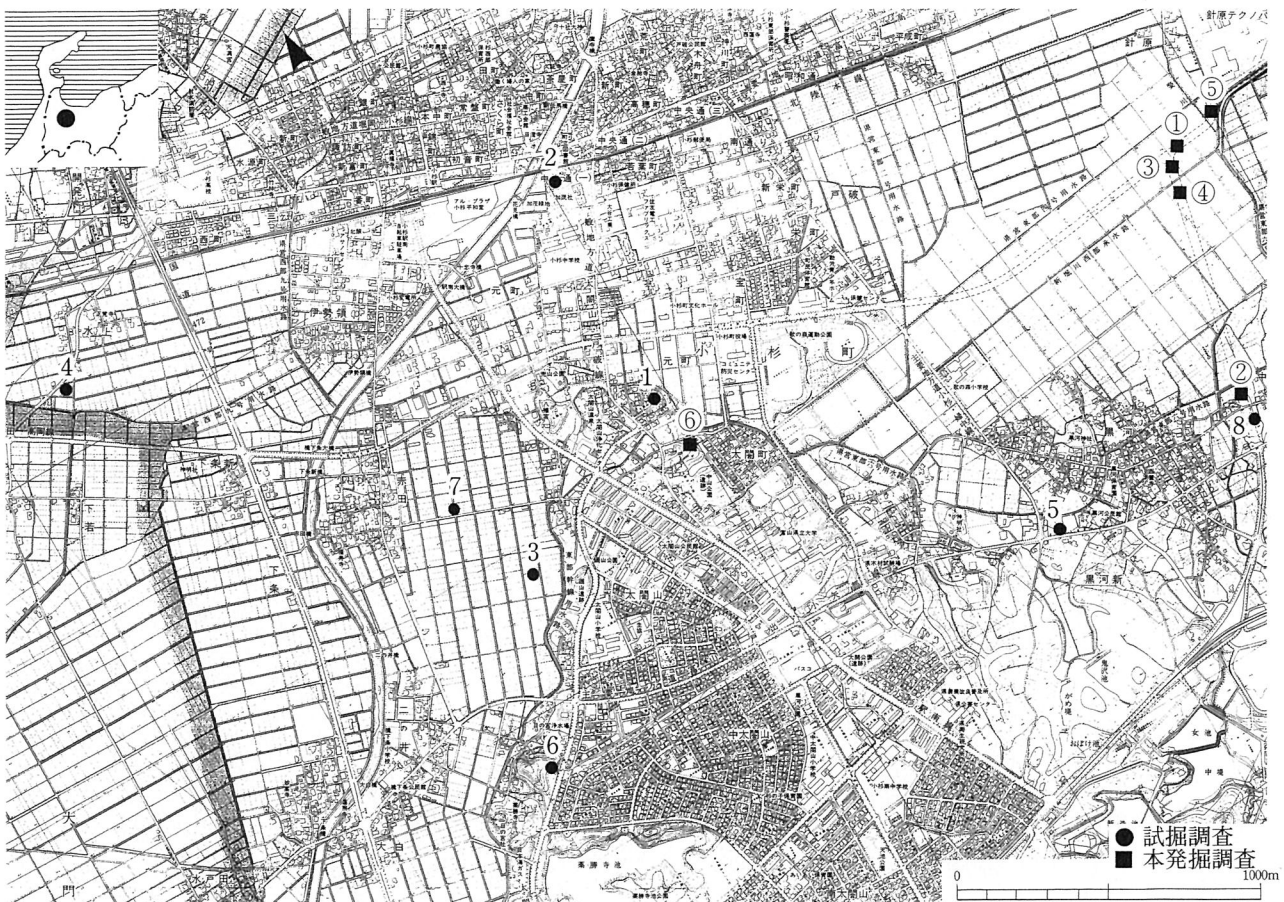
また、分布・現地確認調査の対象面積が4倍以上に増加した理由は、14haに及ぶ土地区画整理事業に先立つ調査を行ったことが主な要因である。

本発掘調査は、件数が2.5倍で面積も大幅に増加し、町職員2名では対応できないため、県道小杉婦中線工事に先立つ針原西遺跡調査では、県埋蔵文化財センターから調査員2名の派遣を受けた。この発掘作業では工事請負の形態と遺物整理に伴う実測や写真撮影に民間委託を取り入れた。

また、同路線に係る2遺跡の調査と町道調査の発掘から報告書作成までの業務を民間調査会社に3件委託し、開発事業との調整を図った。

町指定史跡中山中遺跡では平成10年度より実施されている「富山県ボランティア埋蔵文化財保護活動事業」に伴う発掘調査が行われた。この事業は一般県民の発掘調査に参加したいという声に答え、ボランティアを募り発掘調査を実際に体験することで、埋蔵文化財保護の意識や理解を深めることを目的とした県事業で、県内から39名の参加があった。

(稲垣)



第1図 調査位置図 (1:50,000)

⑨ 数字は調査一覧表の番号を示す。

2. 分布調査

町では、周知の埋蔵文化財包蔵地の隣接地及び未踏査区域で行われる公共事業や民間の各種開発に先立ち、関係機関や事業者と協議し事前に分布調査を実施している。

分布調査とは調査員が現地を踏査し、遺物の散布状況と地形などから埋蔵文化財包蔵地の範囲を推定する調査で、包蔵地内であると判断された場合は試掘調査を行うことになるが、包蔵地外であると判断された場合は開発を実施してもよいこととなる。

本年度は個人住宅(5件)、店舗などの商業施設(3件)、資材置場及び駐車場など(5件)、公共建物(1件)、区画整理事業及び宅地造成(2件)などの各種開発に先立ち調査を実施した。このうち、14haに及ぶ区画整理事業計画地では古墳時代と平安時代の二時期を中心とした遺物がまとまって見られ、約7haが埋蔵文化財包蔵地(赤田Ⅰ遺跡)であると確認されている。

周知の埋蔵文化財包蔵地は、小杉町全図(1万分の1)に記載され、町教育委員会の窓口に備え付けられており、分布調査で新たに発見された遺跡は登載し、その後周知の遺跡として取り扱われる。(稲垣)

| No. | 所在地 | 原因 | 調査日 | 対象面積 | 対象地の種別 | 現況 | 採集遺物 | 開発への対応 |
|-------|------------------|----------------------|---------------------------------------|-----------|------------------|------------------------|---------------------------|--------|
| 1 | 下条1513-1外 | 射水消防組合庁舎移転新築訓練場建設 | H13.4.13 | 9,411㎡ | 未踏査地 | 標高約5.3mの水田畑地 | 近世以降の陶磁器 | 支障なし |
| 2 | 青井谷3663-1・3658-3 | 個人住宅建築 | H13.4.23 | 499㎡ | 未踏査地 | 標高24mの既存宅地 | | 支障なし |
| 3 | 三ヶ939 | 駐車場建設 | H13.4.23 | 314㎡ | 未踏査地 | 標高3.5mの水田 | | 支障なし |
| 4 | 青井谷5057-7 | 個人住宅建築 | H13.4.23 | 165㎡ | 未踏査地 | 標高28mの造成地 | | 支障なし |
| 5 | 青井谷3137-2外 | 山林開発 | H13.4.23 | 233.96㎡ | 未踏査地 | 標高約19mの荒蕪地 | | 支障なし |
| 6 | 黒河573-4 | 店舗建設 | H13.5.8 | 498㎡ | 未踏査地 | 標高5.7mの水田 | | 支障なし |
| 7 | 上野403 | 資材置場建設 | H13.5.8 | 900㎡ | 未踏査地 | 標高9.5mの水田 | | 支障なし |
| 8 | 青井谷63-6・61-1 | 個人住宅建築 | H13.5.8 | 498㎡ | 未踏査地 | 標高約12mの水田 | | 支障なし |
| 9 | 上野404 | 資材置場建設 | H13.5.8 | 475㎡ | 未踏査地 | 標高9.5mの水田 | | 支障なし |
| 10 | 三ヶ1995-4 | 農産物加工施設建設 | H13.7.25 | 381㎡ | 未踏査地 | 標高約5.4mの畑地 | | 支障なし |
| 11 | 戸破字四反田1036-3 | 宅地造成 | H13.11.12 | 651㎡ | 未踏査地 | 標高4.3mの水田 | | 支障なし |
| 12 | 下条690-2 | 個人住宅建築 | H13.12.6 | 498㎡ | 二の井Ⅱ遺跡隣接地 | 標高8.5mの水田 | | 支障なし |
| 13 | 山本字二枚田38-7外 | 北陸自動車道呉羽パーキングエリア改良事業 | H13.12.12 | 7,537.88㎡ | 野田池D遺跡周辺 | 標高約52~70mの雑木林・畑地・水田・溜池 | 炭焼窯 | 支障なし |
| 14 | 白石987 | 資材置場建設 | H14.2.21 | 1,042㎡ | 白石Ⅳ遺跡隣接地 | 標高2.5mの埋立地 | | 支障なし |
| 15 | 下条1092-2外 | 土地区画整理事業 | H13.11.12 12.12 H14.2.20 ~22 | 141,900㎡ | 未踏査地 | 標高約4.5~7.0mの水田 | 土師器・須恵器 珠洲・越中瀬戸 陶磁器 | 一部試掘調査 |
| 16 | 池多660-4 | 個人住宅建築 | H14.3.15 | 199㎡ | 未踏査地 | 標高25.5mの水田 | | 支障なし |
| 計 16件 | | | | 延べ 20日間 | 対象面積 165,202.84㎡ | | | |

表1 現地確認・分布調査一覧

3. 試掘調査

町では、周知の埋蔵文化財包蔵地内で行われる公共事業や民間の各種開発に先立ち、関係機関や事業者と協議し事前に試掘調査を実施している。

試掘調査は、対象地に重機あるいは人力でトレンチと呼ばれる試掘溝(幅約0.8～1.0m、深さは状況に応じ調査員が判断する)を設け、トレンチ内を精査し観察することにより遺構や遺物の出土層位を確認し、遺跡の有無や内容を把握することを目的として行う調査である。

この結果を踏まえて、事業者(原因者)と遺跡の保護措置について協議を重ねていくことになる。具体的にはその事業で行う工事が地下遺構などに及ぼす影響を検討し、計画変更による現状保存、盛土保存、記録保存(本発掘調査)などの保護措置を実施することになる。

本年度の調査は8遺跡8件で、件数は昨年の半分であったが発掘面積では約3倍になっている。面積増加の要因は統合小学校建設予定地(2.7ha)の試掘を実施したことによる。また、8件中4件で明確な遺構などが確認され、その取り扱いについて事業者と協議を行っているところである。(原田)

| No. | 遺跡名 | 所在地 | 原因 | 調査期間 | 対象面積 | 発掘面積 | 種別 | 検出遺構 | 出土遺物 | 開発への対応 |
|------------|------------------------|------------------------------------|------------------------|--|------------------------------|-----------------------------|-----------|---------------------|---|--------------------|
| 1 | 中山北A (381033) | 黒河字中山割 5357-1外 黒河新字江下 36外 | アパート建設 | H13.4.26 (延べ1日間) | 2,634.32m ² | 37m ² | 散布地 | 溝・土坑 | 弥生土器 | 開発条件により 本発掘調査必要 |
| 2 | 加茂社 (381028) | 戸破字加茂 1992外 | 公共下水道 工事 | H13.5.16 (延べ1日間) | 270m ² | 37m ² | 散布地 集落 | | 須恵器・土師器 | 支障なし |
| 3 | 赤田東 (381053) | 下条945外 | 統合小学校 建設 | H13.10.19 ～26 (延べ6日間) | 27,000m ² | 2,251m ² | 散布地 | 溝 柱穴状土坑 井戸状土坑 | 縄文土器・打製石斧 弥生土器・古式土師器 古代土師器・須恵器・鉄器 鉄滓・フイゴの羽口 中世土師器・珠洲 近世陶器・石器 | 協議中 |
| 4 | 水上・ 本開発 (381026) | 三ヶ1823-2 外 | 個人住宅建築 | H13.11.27 (延べ1日間) | 499.11m ² | 21.2m ² | 散布地 | 土師質土器 | | 支障なし |
| 5 | 黒河竹山 (381065) | 黒河字竹山 3227外 | 資材置場造成 | H13.12.17 (延べ1日間) | 669m ² | 30.5m ² | 散布地 | 溝 | | 支障なし |
| 6 | 日の宮城跡 (381089) | 日宮字寺山 108外 | 個人住宅建築 | H13.11.29 ～12.27 H14.1.15 ～2.22 (延べ17日間) | 2,204.62m ² | 264m ² | 都城跡 | 弥生時代の 大溝 中世城郭 | 弥生土器・須恵器 中世土師器・珠洲 | 協議中 |
| 7 | 赤田I (381301) | 下条1284-1 外 | 土地区画整理 事業 (仮設水路) | H14.3.18 ～20 (延べ3日間) | 216m ² | 216m ² | 集落 | 古墳時代の 溝 | 土師器・須恵器・珠洲 中世陶磁器 | 協議中 |
| 8 | 黒河尺目 (381044) | 黒河1945-1 外 | 小杉婦中線 建設 | H14.3.27 (延べ1日間) | 2,200m ² | 92.29m ² | 集落 | | 縄文土器・土師器・須恵器 珠洲・中世陶器・近世磁器 | 支障なし |
| 計 8 遺跡 8 件 | | | | 延べ 31 日間 | 対象面積 35,693.05m ² | 発掘面積 2,948.99m ² | | | | |

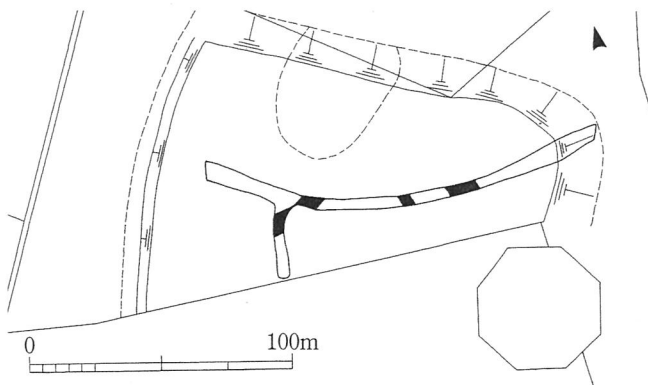
表2 試掘調査一覧

中山北A遺跡 (No. 1)

対象地は、射水丘陵の北端標高14.2mに位置する。調査の結果、1層が淡黒褐色土の表土(5~10cm)、2層は暗茶褐色土(5cm)、3層が黄褐色土または明茶褐色土の地山となる。遺構確認面は3層上面である。

検出遺構は、弧状に巡ると考えられる幅1.5m程の溝1条と直線的に延びる幅2.5m及び幅0.7mの溝を1条ずつ確認した。各溝からは弥生土器が出土しているほか、表土からは近世陶器が見つかった。このため、遺構に影響が及ぶ工事を行う場合本発掘調査が必要と判断している。

(原田)



第3図 発掘区

加茂社遺跡 (No. 2)

対象地は標高5.1mの下条川右岸、戸破加茂社境内の北側に位置する。調査の結果、遺構は確認されなかったが古代の須恵器と土師器が出土した。

対象地の西側では宅地造成に伴い本発掘調査を行っているほか、加茂社の南に位置する小杉中学校の体育館建設でも本発掘調査を行っている。今回の対象地から出土した遺物は、周辺の調査と同時期にあたる平安時代頃と見られる。

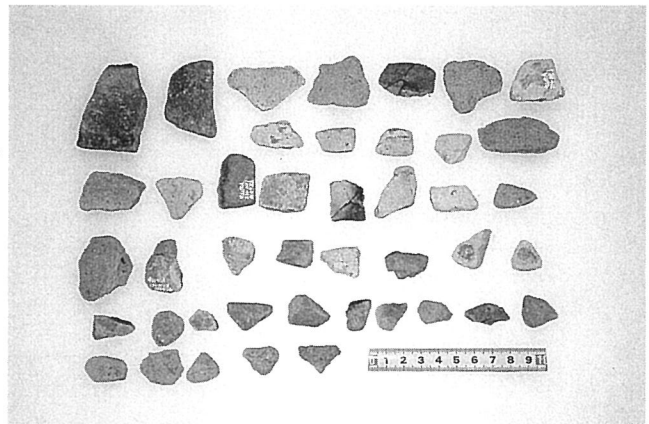
(原田)



P L. 2 調査風景



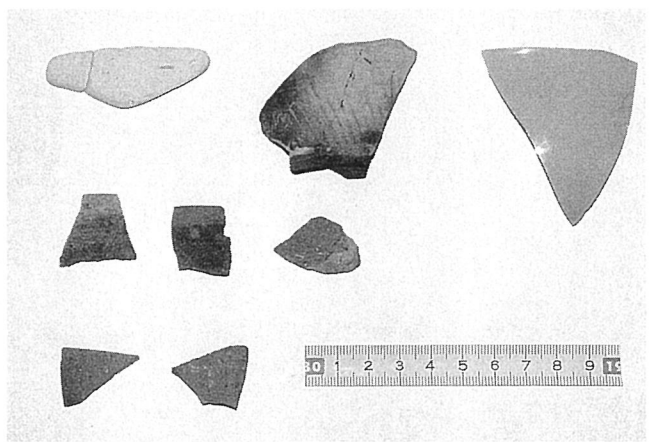
第2図 調査位置図 (1:10,000)



P L. 1 出土遺物



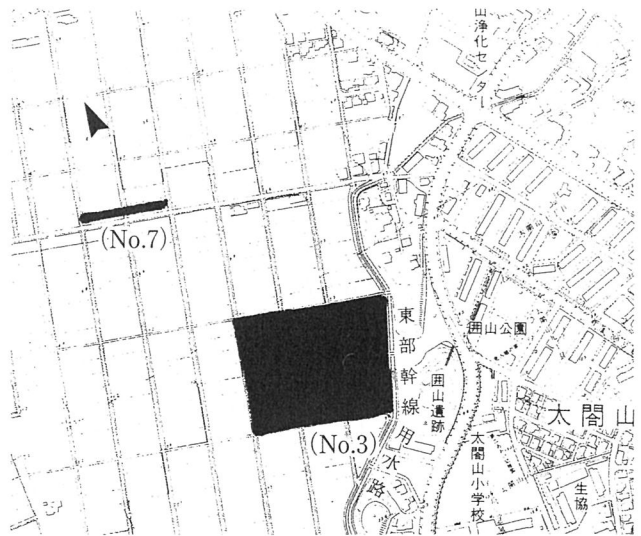
第4図 調査位置図 (1:10,000)



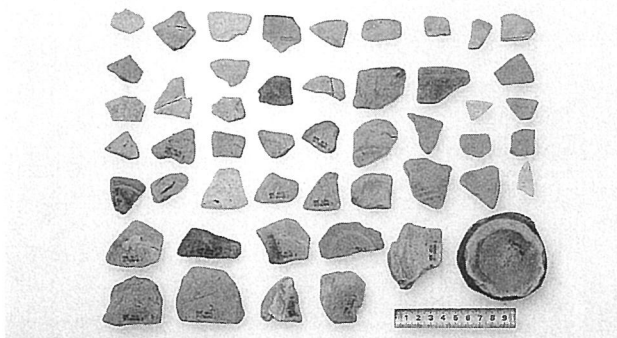
P L. 3 出土遺物

赤田東遺跡 (No.3)

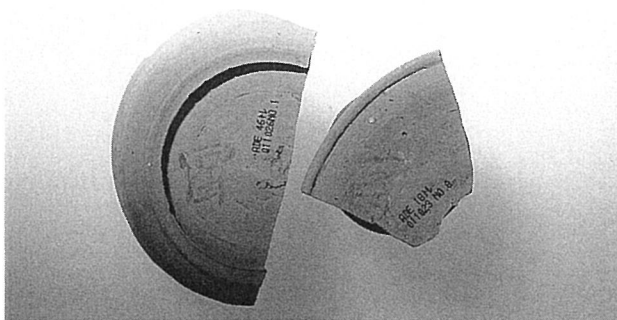
対象地は、射水丘陵と射水平野の境目の平地側に位置する。遺構は対象地の南側で多く検出され、幅0.2~0.3mの溝数条と幅約1.0~数mの溝状遺構及び直径0.3~0.4mの小土坑や直径1.5~2.5mの井戸状土坑などを確認した。遺構の年代は、出土遺物から古墳時代と平安時代に大別される。(原田)



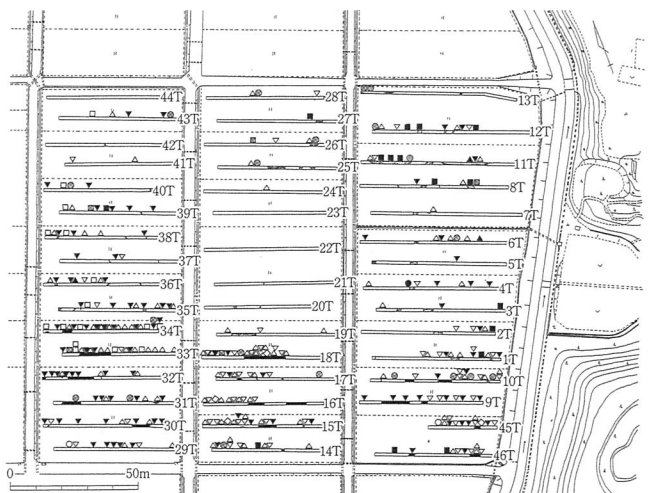
第5図 調査位置図 (1:10,000)



PL.4 出土遺物



PL.5 出土遺物 (墨書土器)

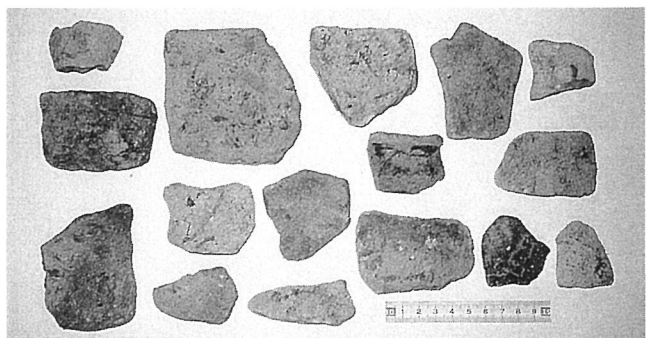


第6図 発掘区

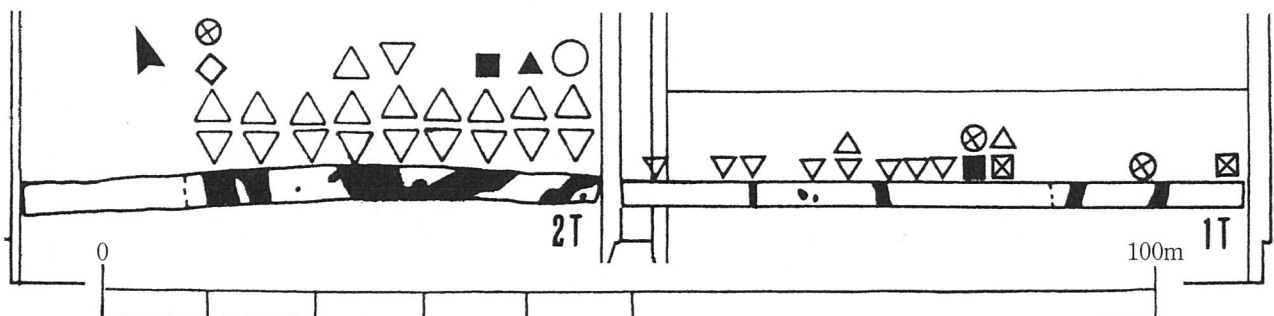
赤田I遺跡 (No.7)

対象地は、分布調査を行った結果包蔵地であると判断されたが、工事立会当時はまだ赤田I遺跡としては未登録であった。

立会の結果、南北方向に流れる溝数条と土坑を確認した。溝からは古墳時代初めの土師器が多量に出土しており、そのほか須恵器・珠洲・中世土師器・中世陶磁器・近世陶磁器も見つかっている。(稲垣)



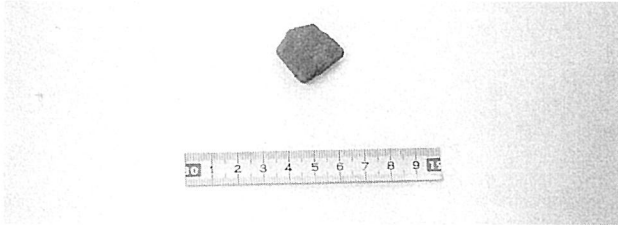
PL.6 出土遺物



第7図 発掘区

水上・本開発遺跡 (No. 4)

調査区全体が大きな谷あるいは川跡の中に位置しており、現水田は埋め立てられて作られたもので、埋蔵文化財包蔵地内ではないと考えられる。(稲垣)



PL. 7 出土遺物



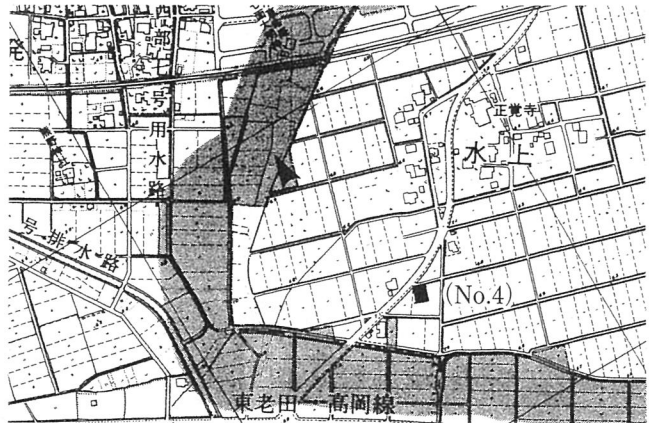
PL. 8 調査風景

黒河竹山遺跡 (No. 5)

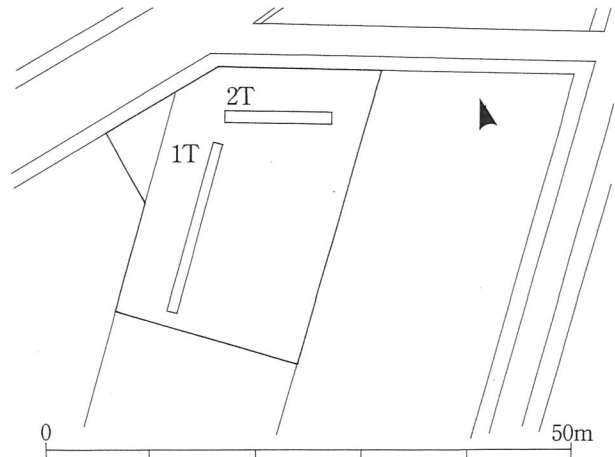
対象地は、射水丘陵先端に樹枝状に細かく入り込む谷が平野部に至り幅を増す位置にあたる。標高は約10mである。基本層序は1層が淡黒褐色土の耕作土(20~50cm) 2層は黒褐色土(10~30cm)、3層が黄褐色土または茶褐色粘質土の地山となる。遺構の確認は3層上面で行った。幅0.3mの溝を検出したが時代は不明で、遺物の出土はなかった。(原田)



PL. 9 調査風景



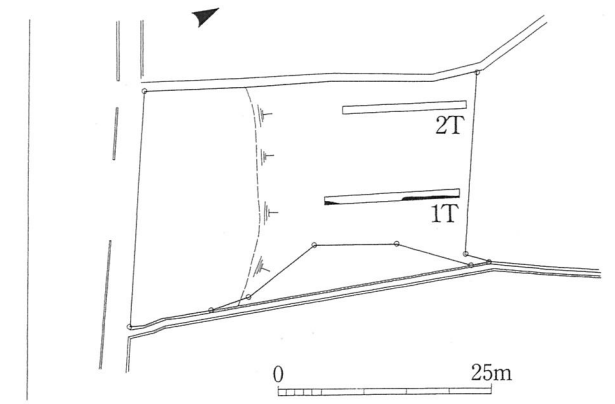
第8図 調査位置図 (1:10,000)



第9図 発掘区



第10図 調査位置図 (1:10,000)

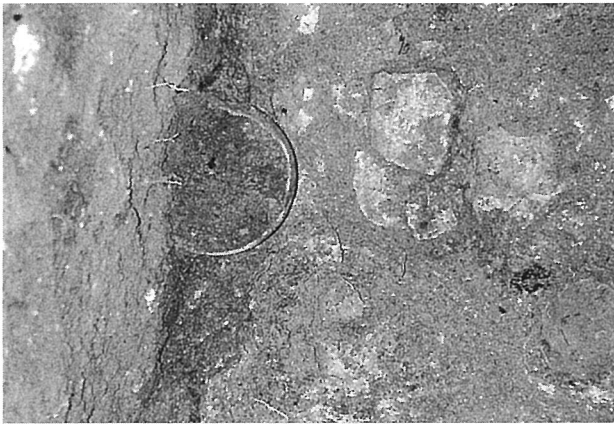


第11図 発掘区

日の宮城跡 (No. 6)

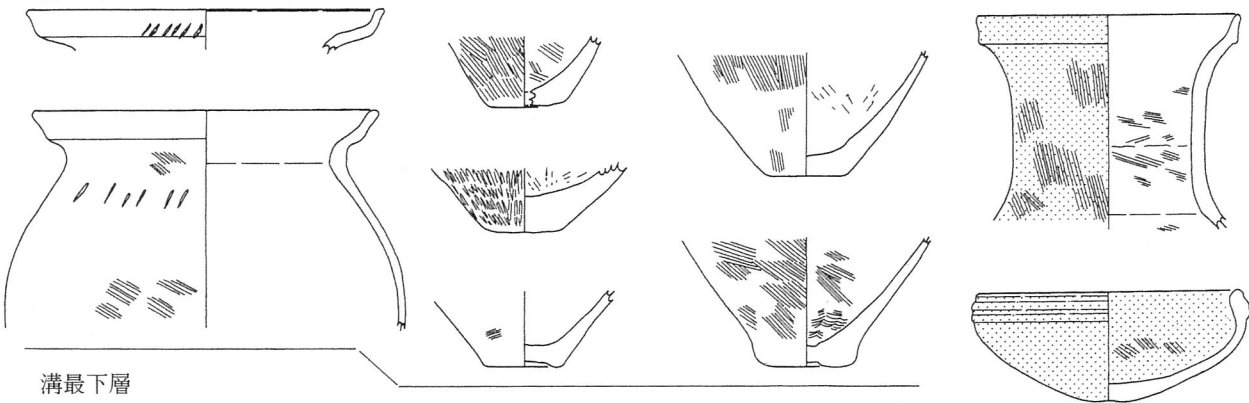
今回の調査地では、中世城郭の下層で弥生時代後期の
大溝が確認されている。大溝は城郭切岸上の平坦面下約
30cmから検出され、幅約3.8m、深さ2.5mで断面形が逆
台形状となっている。長さは試掘トレンチで25mまで確
認しているが平坦面沿いにさらに続くと考えられる。

この調査から城のある丘陵は、弥生時代の大溝掘削な
どの造成により改変され、一部では築城時の地形に近い
形状になっていたと推察される。 (原田)

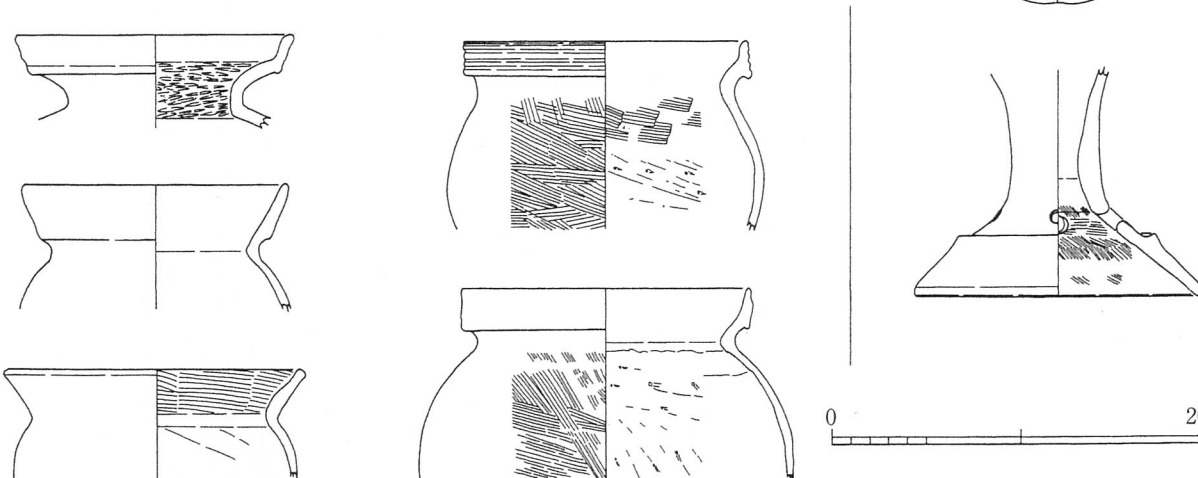


P L. 10 遺物出土状況 (大溝底部)

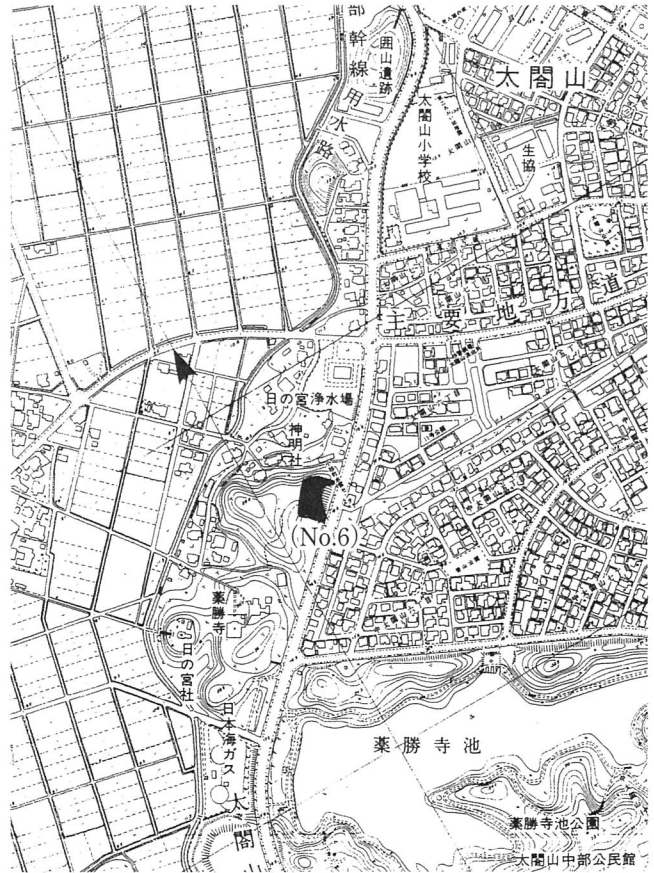
溝底面



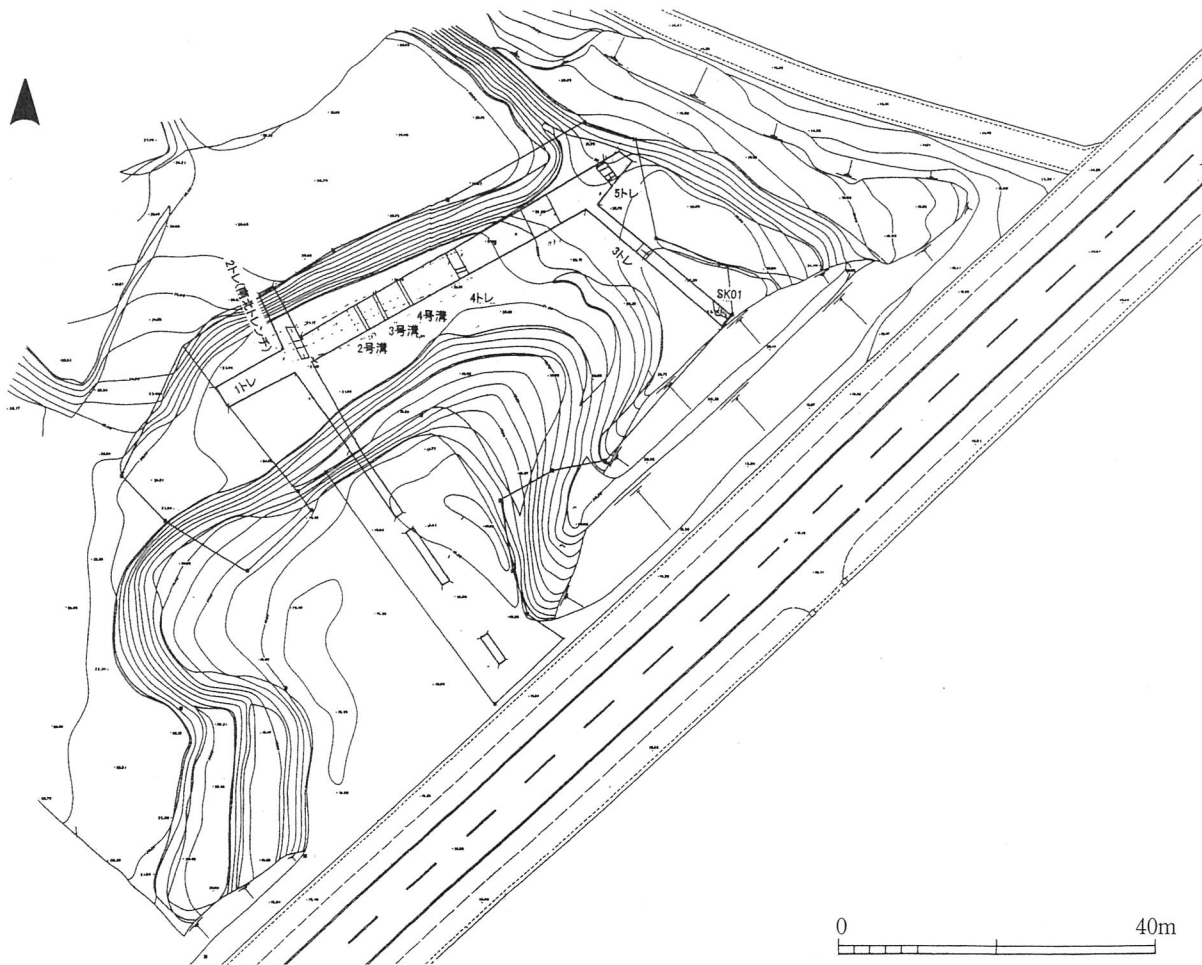
溝最下層



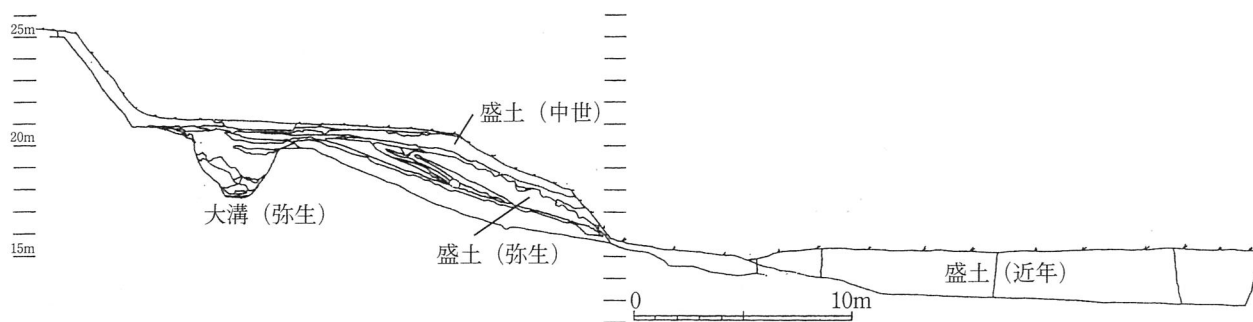
第13図 2トレンチ弥生大溝内出土遺物



第12図 調査位置図 (1:10,000)



第14図 発掘区



第15図 南北トレンチの土層



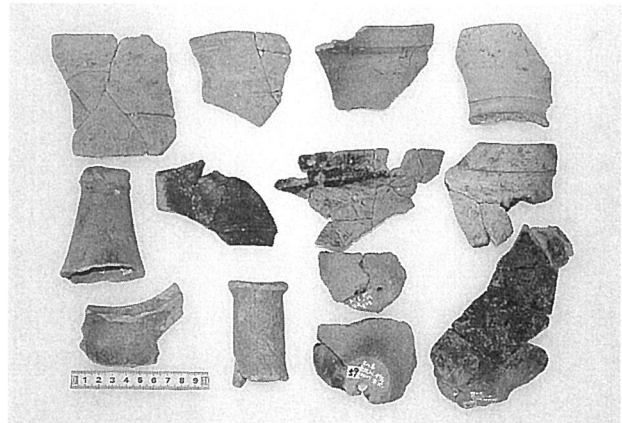
P.L.11 調査風景



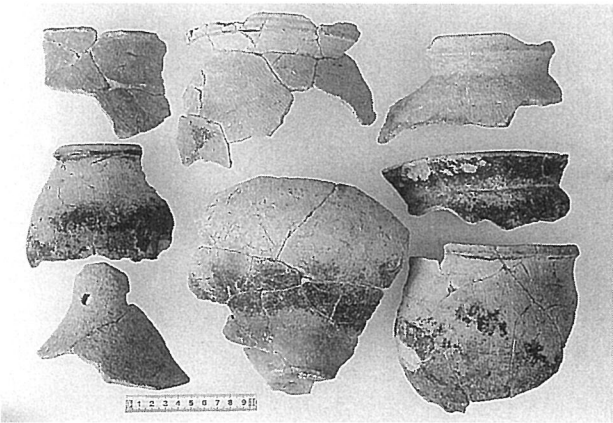
P.L.12 調査風景



P L.13 出土遺物 (弥生土器)



P L.14 出土遺物 (弥生土器)



P L.15 出土遺物 (弥生土器)



P L.16 出土遺物 (中世土師器)

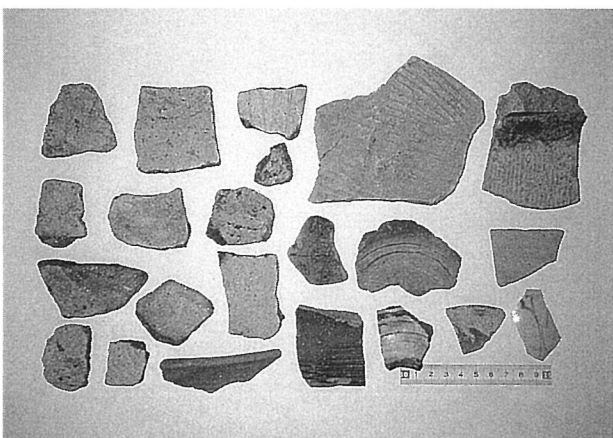
黒河尺目遺跡 (No. 8)

今回の調査と昭和62年・平成13年に行われた当遺跡の本発掘調査結果を総合すると、調査対象地を幅20~30mの谷あるいは川が南北方向に縦断する(以下谷という)。

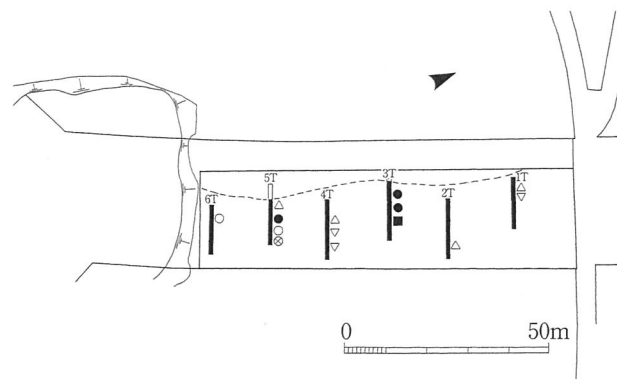
土層観察の結果、耕作土直下に鉄分の沈着が少ないことから水田としての利用期間が短いと考えられる。また、調査対象地内の谷の覆土が耕作土と同質で近代陶磁器片が含まれており、近代に埋め立てられたと思われる。(稲垣)



第16図 調査位置図 (1:10,000)



P L.17 出土遺物



第17図 発掘区

4. 本発掘調査

平成13年度に教育委員会で実施した本発掘調査は、3遺跡5件であった。調査の原因は、すべて公共事業で県道小杉婦中線工事に先立つ調査が3件、町道東老田高岡線工事に先立つ調査と町道針原テクノパーク線工事に先立つ調査が各1件であった。県道小杉婦中線と町道東老田高岡線は小杉町黒河で交差し、町道東老田高岡線がさらに東に伸びて町道針原テクノパーク線とつながるため、本年度は隣接した場所ではほぼ同時に5件の本発掘調査が行われた。

5件の調査面積が10,000㎡を超えることから町の調査員2名では対応しきれないため、県道小杉婦中線の2件と町道針原テクノパーク線の1件を民間発掘調査会社に業務委託することになった。小杉町が調査の業務委託を行うのは8年ぶり、委託にあたり業務仕様書を作成し、発掘調査基準に基づき調査費の積算を行い、入札後契約し、発掘現場では調査工程ごとに段階確認を行ない、調査を監理した。

針原西遺跡Ⅱ地区では、県埋蔵文化財センターの職員2名の派遣を受け町職員1名と合同で調査を行った。また、隣接して同時期に調査が行われることから作業員の確保が困難と考え、町では初めて現地発掘作業に工事請負の形態を取り入れた。整理作業においても大量に遺物が出土したため、実測及び写真撮影を民間専門業者に一部委託した。このような業務委託は小杉町にとって初めての経験であったが、仕様書の内容の再検討や業者選定基準の明確化、委託業務の検査基準と方法などが今後の課題となった。(稲垣)

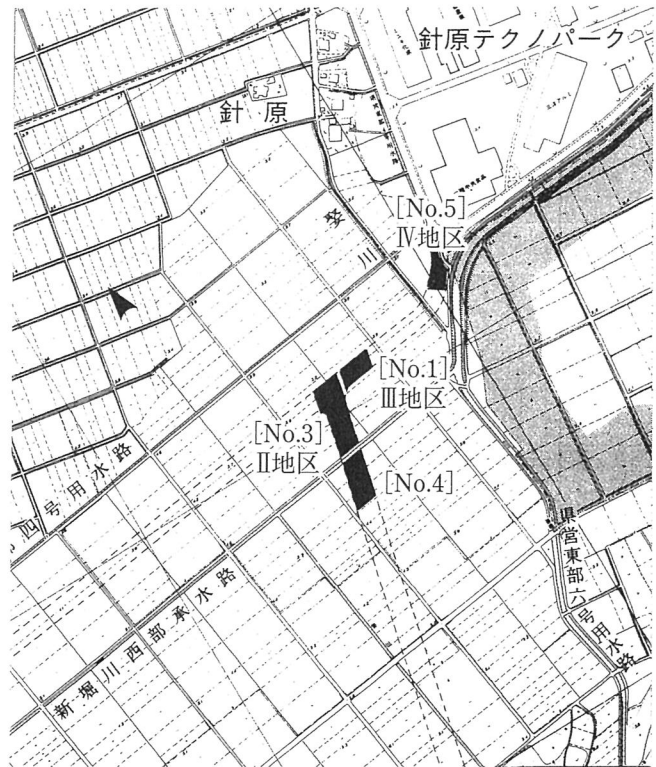
| No | 遺跡名 | 所在地 | 原因 | 調査期間 | 発掘面積 | 検出遺構 | 出土遺物 | 備考 |
|----|---|-----------|-------------------------------------|--|--------|---|---|-------------------|
| 1 | 針原西(Ⅲ地区) (381030) | 黒河80外 | 町道東老田高岡線工事 | H13. 5. 17 ～ 8. 6 (延べ43日間) | 900㎡ | 土坑・川跡(縄文) 溝用排水路(区画整理前) | 縄文土器・石器 須恵器(古代) 珠洲・木製品(中世) 陶器・磁器・金属製品(近世) | |
| 2 | 黒河尺目 (381044) | 黒河99-2外 | 県道小杉婦中線工事 | H13. 6. 2 ～10.22 (延べ63日間) | 2,500㎡ | 川跡・土坑 | 縄文土器・石器 土師器・須恵器(古代) 土師器・珠洲・漆碗(中世) 越中瀬戸・伊万里 分銅(近世) | 民間委託 |
| 3 | 針原西(Ⅱ地区) (381030) | 黒河73-2外 | | H13. 6. 4 ～10.29 (延べ96日間) | 4,050㎡ | 川跡・貝層・土坑 | 縄文土器・石器 土師器・須恵器(古代) 珠洲・越中瀬戸 | 県教委 協力 |
| 4 | 黒河・中老田 (381043) | 黒河470-2外 | | H13. 7. 2 ～11.26 (延べ74日間) | 2,500㎡ | 川跡1 土坑2基(縄文) 溝1条(古代) 川跡1(中・近世) | 縄文土器・土製品 石器(縄文) 土師器・須恵器(古代) 珠洲・越中瀬戸 木製品(中・近世) | 民間委託 |
| 5 | 針原西(Ⅳ地区) (381030) | 黒河21外 | 町道針原テクノパーク 線工事 | H13. 12. 10～ H14. 1. 12 (延べ19日間) | 670㎡ | 溝1条(弥生時代末 ～古墳時代初頭) 河川跡1(旧娶川跡) | 弥生土器 須恵器(古代) 珠洲・木製品(中世) | 民間委託 |
| 6 | 中山中 (381035) | 太閤山1-130外 | 県ボランティア埋蔵 文化財保護活動事業 (遺跡の状況把握) | H13. 9. 3 ～10.19 (9.25～10.4) ()はボランティア期間 | 241㎡ | 土坑・住居跡(弥生) 古墳 | 縄文土器・石器・土偶 弥生土器・鉄器・古式土師器 須恵器 | 県文化振 興財団実 施 |
| 計 | 4遺跡6件 公共事業3件 学術調査1件(県教委主体) 延べ295日間 発掘面積10,620㎡ ※集計には6の県主体調査の数値は除く | | | | | | | |

表3 本発掘調査一覧

針原西遺跡（Ⅱ地区）〔No. 3〕

Ⅱ地区は、昨年度調査を行った針原西遺跡の東に隣接する。調査区では遺構面が2層検出され、上層は古代で下層は縄文時代であった。調査の中心は下層で、前年度男根形木製品が出土した川跡の続きを検出した。川跡は調査区中央からⅢ地区をかすめて縦断し、南に位置する黒河・中老田遺跡（本年度調査区）まで伸びていることが確認された。川跡内からはヤマトシジミを中心にカキやカワニナなど海洋生汽水生及び淡水生のものが混在した貝層が複数検出された。

出土遺物は、縄文中期から後期の土器片と打製石斧や磨製石斧などの石器が多量出土したほか、土器片錘や石錘も多く見つかった。昨年度は木製品が多数出土したが今回は検出されなかった。しかし、指輪状石製品・瑛状耳飾などの石製装飾品が出土した。指輪状石製品は小矢部市桜町遺跡からも出土しているが、装飾部分に穴が穿たれておりペンダントヘッドの可能性もある。（稲垣）



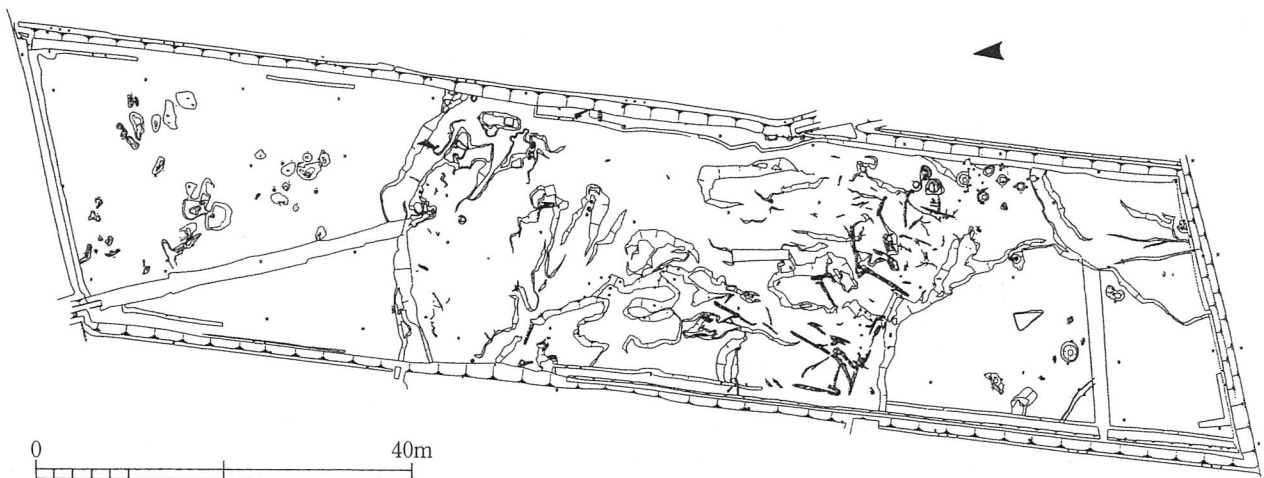
第18図 調査位置図 (1:10,000)



PL.18 調査風景



PL.19 調査風景



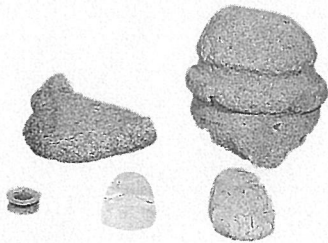
第19図 発掘区（下層の遺構）

黒河・中老田遺跡 [No. 4]

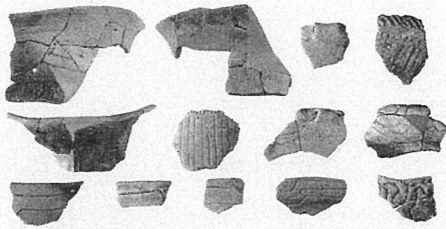
針原西遺跡(Ⅱ地区)の南に隣接し、同様の遺構面が2層検出された。上層は古代・中世の川跡で下層は縄文時代の川跡である。

古代・中世の遺構は川跡のみで、覆土には奈良から平安時代(8世紀前半～9世紀後半)の遺物も混在する。

縄文時代の川跡は、平成12年度に調査を行った針原西遺跡(Ⅰ地区)・(Ⅱ地区)から続くものである。川跡は北側に比べ南側はかなり浅く遺物量も激減し、木製品や流木の検出はなかった。(稲垣)



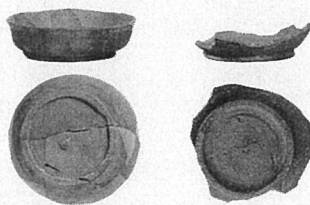
P L. 20 出土遺物



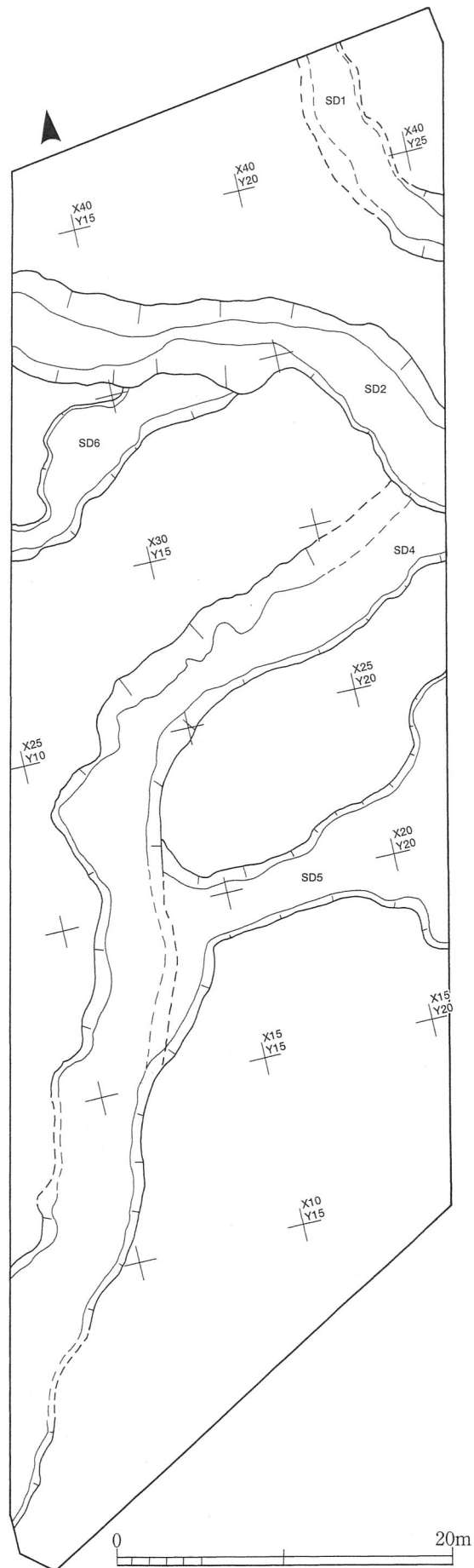
P L. 21 出土遺物



P L. 22 調査風景



P L. 23 出土遺物



第20図 発掘区(上層の遺構)

針原西遺跡（Ⅲ地区）[No. 1]

対象地は標高3.3mでⅡ地区の東側に隣接する。Ⅰ・Ⅱ地区と同様に縄文時代と古代から近世にかけての遺構面が二面確認され、調査区北西端では圃場整備前の水門跡が見つかった。

調査区南端で確認されたSD04・18、SX06は同一遺構で川跡の縁辺部と見られ、Ⅰ・Ⅱ地区で検出した縄文時代の川跡が東方向へ分流した一部であると考えられる。

(原田)



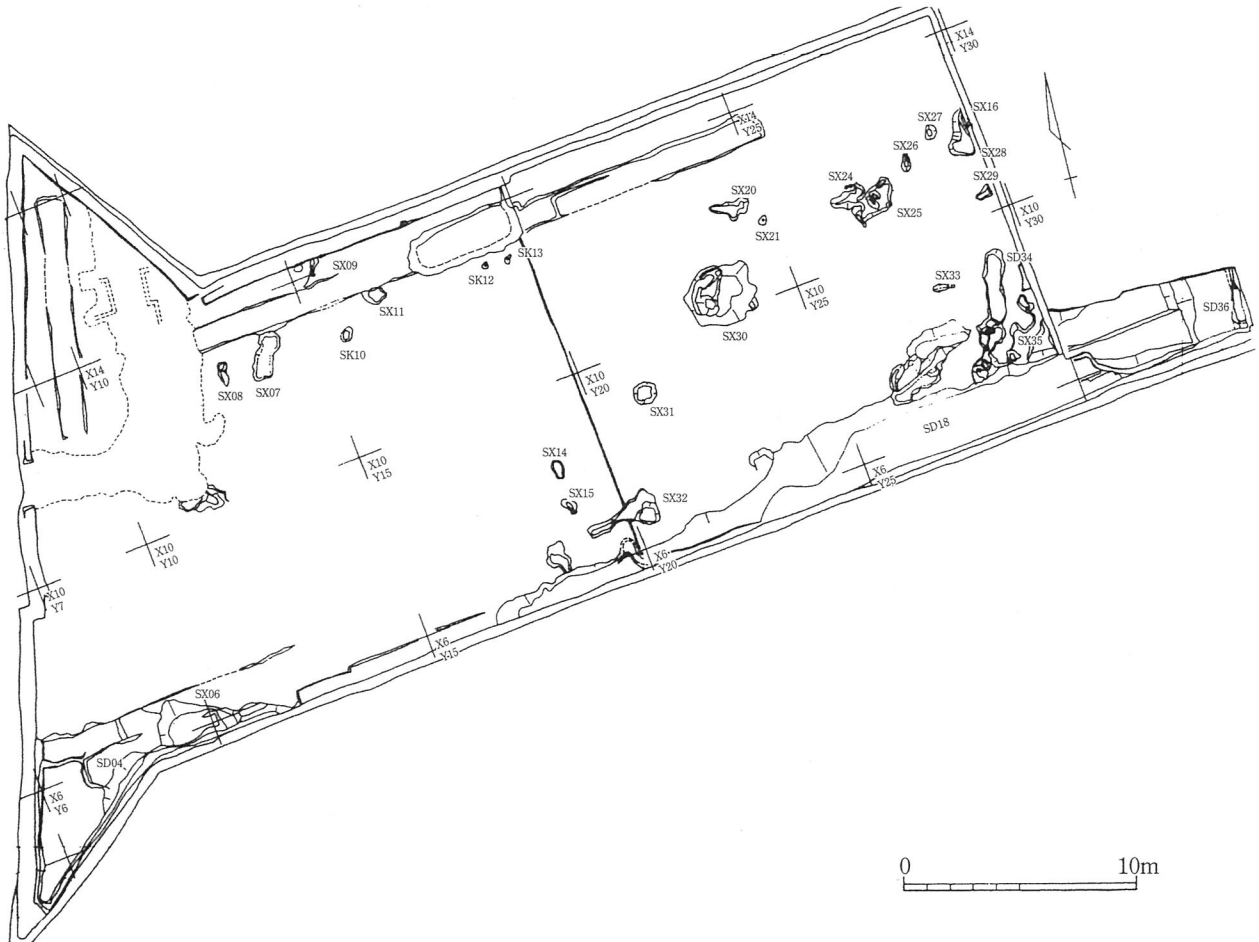
P L.24 調査風景



P L.25 遺物出土状況



P L.26 遺物出土状況

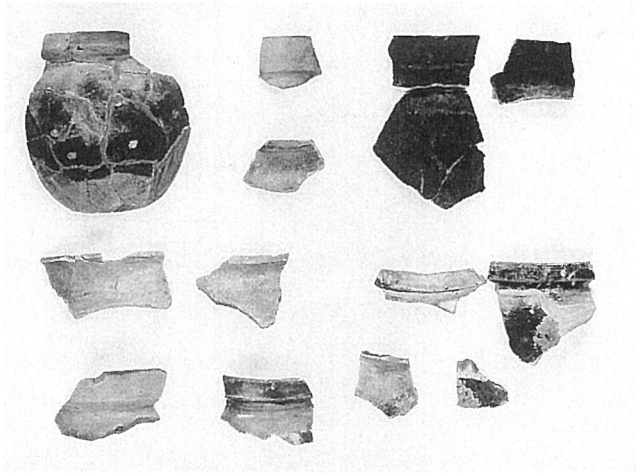


第21図 発掘区（縄文時代の遺構）

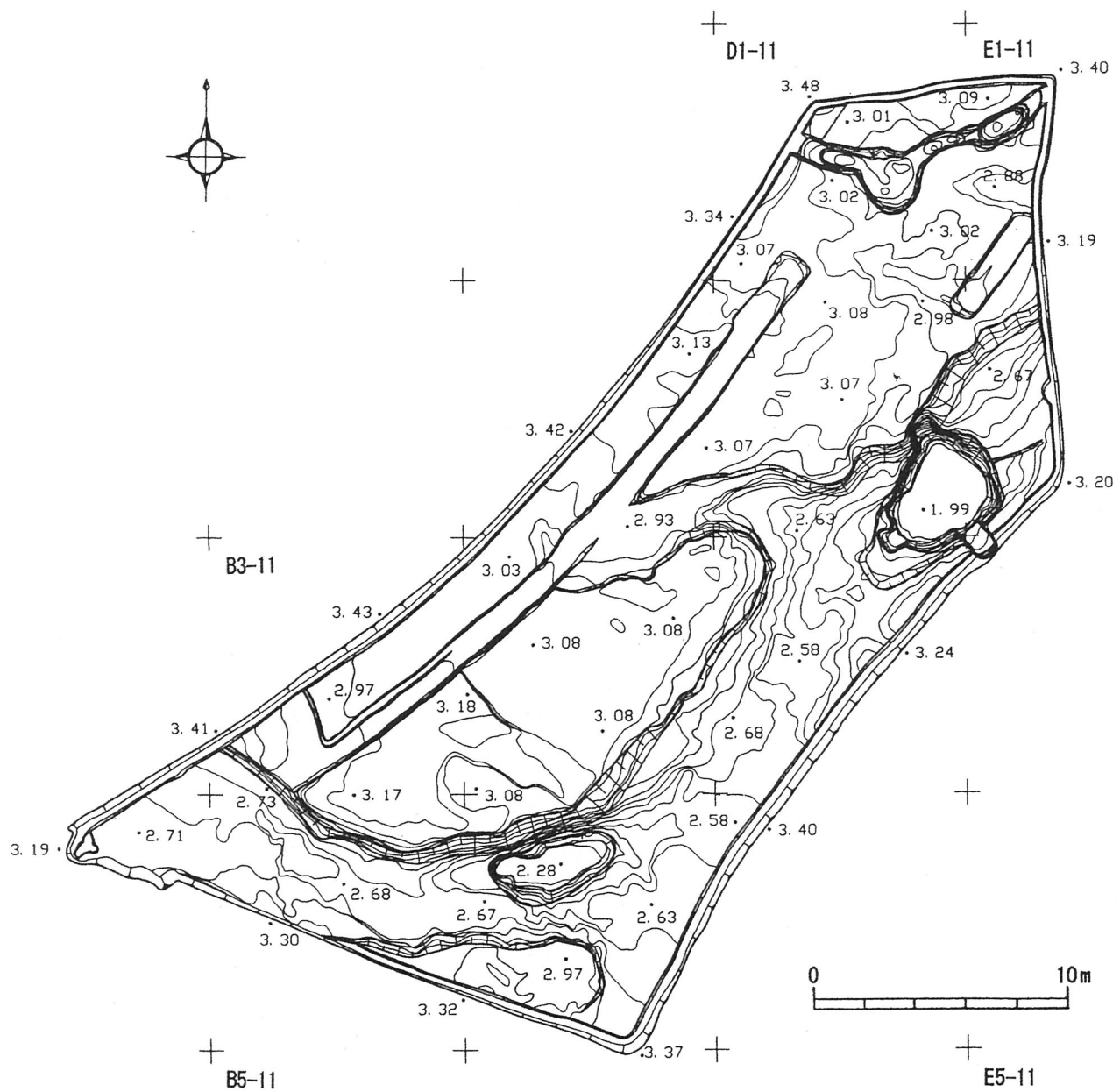
針原西遺跡 (IV地区) [No. 5]

針原西遺跡(III地区)と針原東遺跡の中間に位置する。確認された遺物は二時期である。古墳時代前期は、溝1条と河道が1条である。溝は発掘部分が一部であるため全容はつかめないが、甕・壺・高杯・器台などの出土状況から掘立柱建物に伴う周溝と考えられる。河道は旧娶川と思われ、古墳時代前期の土器と桶状容器の底板や槌状の形態を成す未製品などが出土した。

奈良・平安時代の遺構は確認されなかったが、古墳時代の溝の上層部から須恵器が出土している。(稲垣)



P L. 27 出土遺物



第22図 発掘区

黒河尺目遺跡 [No. 2]

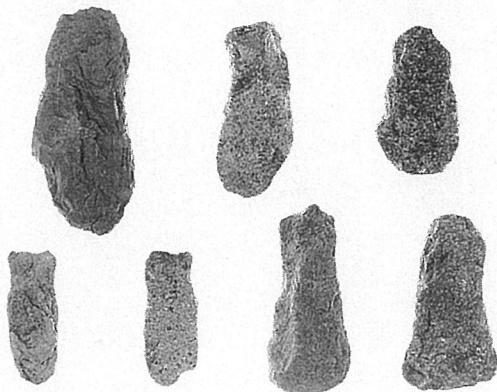
対象地は標高7mの射水丘陵南端に位置する。調査区の地形は、北東の角が最も標高が高く南西に向かって中段、下段(谷部)と階段状に低くなる。

遺構が多く検出された上段面は、削平・攪乱を受けており、表土直下で遺構を検出した。中段面の遺構は浅いものが多く、出土した遺物は流れ込みと考えられる。下段面は谷底で、わずかに遺構が認められたが縄文時代の遺構ではない。いずれの面においても遺構から出土している遺物が少なく、年代を特定するには至らなかった。

(稲垣)



P L. 28 調査風景



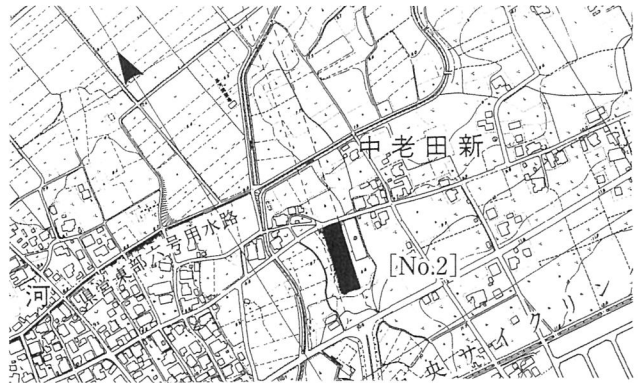
P L. 29 出土遺物



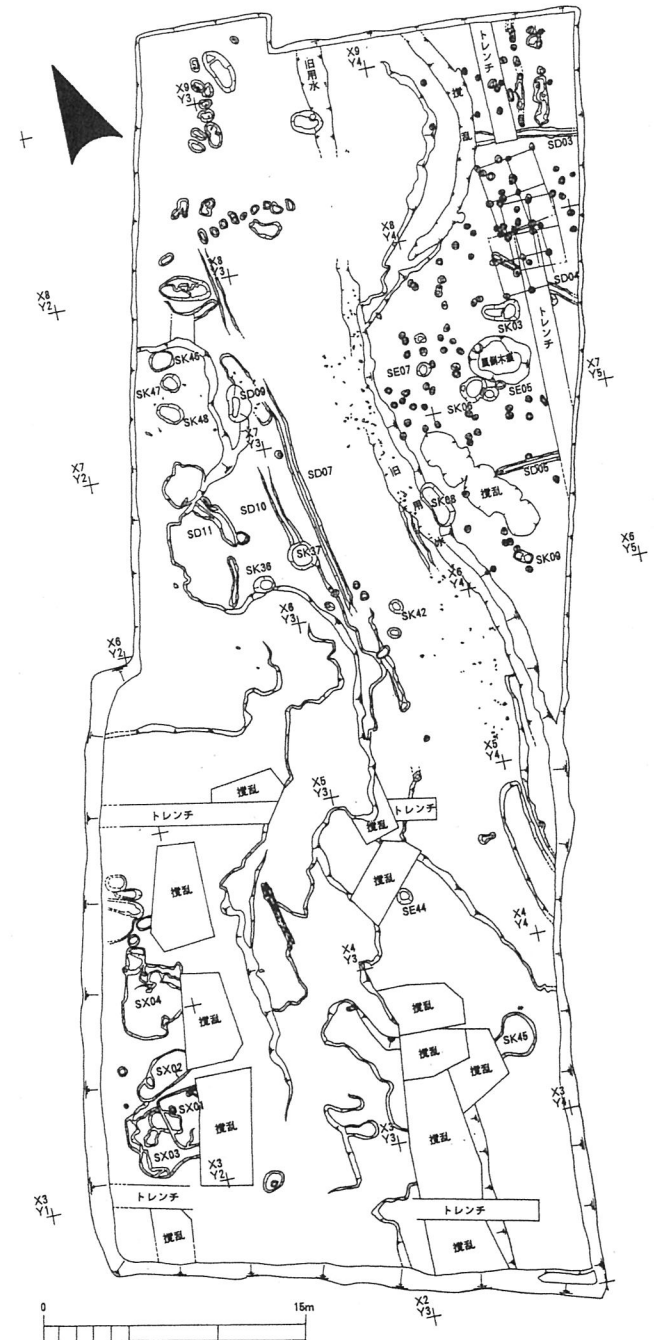
P L. 30 出土遺物



P L. 31 出土遺物



第23図 調査位置図 (1:10,000)



第24図 発掘区

5. 普及・活用

(1) 埋蔵文化財整理室での作業

整理室では平成12年度に実施した針原西遺跡Ⅱ地区(町道東老田高岡線改良工事)の報告書作成のため、遺物の分類・復元・実測・版組み・トレース・写真撮影を行うと共に、本年度調査した針原西遺跡Ⅲ地区から出土した遺物の洗浄・注記・接合・図面作成のほか、分布調査や試掘調査で採集した遺物の洗浄・注記を行った。また、未刊行の発掘調査報告書の作成作業も行った。

(2) 埋蔵文化財整理室の見学

平成8年に太閤山小学校から旧西部保育所へ移転し、平成13年10月には旧図書館(元町役場)へ移転した。新整理室は木造2階建てで1階が整理室及び埋蔵文化財展示室と遺物保管室、2階が竹内源造(左官)の鍍絵作品展示室及び写場と図面保管室である。

11月20日から12月2日まで『竹内源造鍍絵展』を開催したところ、期間中県内外から約800名の見学者があり、小杉町の埋蔵文化財についても理解を深めて頂いたほか、14歳の挑戦や勤労体験学習など中学生や高校生の社会体験の場として、また郷土の歴史を学ぶ施設として約330名の利用があった。

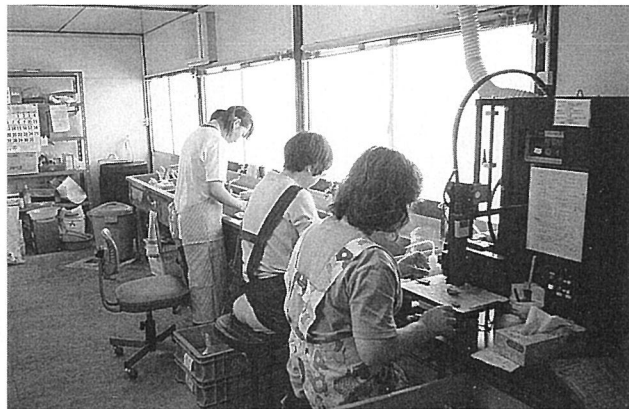
(3) 報告書などの刊行

小杉町教育委員会が2002年3月までに刊行したものは以下のとおりである。

- ①『小杉町埋蔵文化財発掘調査一覧 2001年度』(A4版16頁)
- ②『黒河尺目遺跡発掘調査報告』(A4版70頁)
- ③『黒河・中老田遺跡発掘調査報告』(A4版96頁)



P L . 32 14歳の挑戦



P L . 33 小杉高校勤労体験学習



P L . 34 資料作成



P L . 35 接合作業

| 年度 | 現地確認・分布調査 | | | 試掘調査 | | | 本発掘調査 | | |
|-----|-----------|-----------------------|--------|------|-----------------------|--------|-------|-----------------------|--------|
| | 件数 | 対象面積(m ²) | 延べ調査日数 | 件数 | 発掘面積(m ²) | 延べ調査日数 | 件数 | 発掘面積(m ²) | 延べ調査日数 |
| 5 | ※12 | 16,865 | 7 | 4 | 1,189 | 15 | 6 | 12,286 | 362 |
| 6 | 22 | 54,650 | 11 | 8 | 4,714 | 19 | 3 | 5,304 | 148 |
| 7 | 27 | 84,031 | 21 | 23 | 3,079 | 42 | 1 | 400 | 49 |
| 8 | 29 | 51,502 | 17 | 13 | 2,159 | 27 | 6 | 6,695 | 296 |
| 9 | 44 | 80,519 | 27 | 15 | 7,937 | 58 | 3 | 3,571 | 219 |
| 10 | 36 | 58,797 | 19 | 15 | 3,504 | 36 | 3 | 2,767 | 50 |
| 11 | 24 | 61,933.96 | 18 | 15 | 3,620.5 | 39 | 2 | 1,253 | 60 |
| ※12 | 22 | 37,193.83 | 22 | 15 | 1,157.5 | 35 | 2 | 2,080 | 102 |
| 13 | 16 | 165,202.84 | 20 | 8 | 2,948.99 | 31 | 5 | 10,620 | 295 |

表4 小杉町埋蔵文化財発掘調査件数などの年度別推移（県教委主体調査を除く）

※平成5年度発行の『小杉町埋蔵文化財発掘調査一覧 1993年度』以降の調査件数を加算している。

※平成12年度発行の『小杉町埋蔵文化財発掘調査一覧 2000年度』の同表中12年度の集計数値に誤りがあったので本表では訂正した数値を記入している。

小杉町埋蔵文化財発掘調査一覧 2001年度

平成14年3月31日発行

編集・発行 小杉町教育委員会

富山県射水郡小杉町戸破1511

〒939-0393 TEL (0766)56-1511

印刷 北日本印刷株式会社

